

# 牛の疾病とワクチン

令和3年3月

# アルボウイルスによる牛異常産

アルボウイルスとは、ヌカカ、蚊など吸血性節足動物が媒介するウイルスであり、流産、死産、子牛の体型異常等を起こすもので代表的なものとして、以下の4疾病があります。

## 1 アカバネ病（届出伝染病）

### 主な症状

母牛：流産、早産、死産

子牛：起立困難、関節彎曲、脊柱彎曲、大脳欠損、盲目

## 2 チュウザン病（届出伝染病）

### 主な症状

母牛：流死産がほとんどなく、異常子牛の出産が多い

子牛：体型異常はない、起立不能、自力哺乳困難、水無脳症、小脳形成不全

## 3 アイノウイルス感染症（届出伝染病）

### 主な症状

母牛：流産、早産、死産

子牛：関節彎曲、脊椎彎曲（頸部～胸部）、水無脳症、小脳形成不全

## 4 ピートンウイルス感染症

### 主な症状

母牛：流産、早産、死産

子牛：関節彎曲、脊椎彎曲（頸部～胸部）、水無脳症、小脳形成不全

## ○牛異常産ワクチン（不活化、4種混合）

### ・母牛への注射

初年度	4月 	5月 	6月
	1回目	2回目	ヌカカによる感染時期
次年度以降	4月 	5月	6月
	1回注射		ヌカカによる感染時期

# 牛の呼吸器病

## 1 牛伝染性鼻気管炎（IBR）（届出伝染病）

### 主な症状

- ・母牛：感染時期によっては流産
- ・子牛：発熱、鼻汁、流涙、咳など、生後2～6週齢で発症率高い

## 2 牛ウイルス性下痢（BVD）（届出伝染病）

### 主な症状

- ・急性感染牛：発熱、下痢、呼吸促迫、流産、異常産
- ・持続感染牛：慢性的な下痢、成長不良、もしくは無症状

※胎子が感染した場合、感染時の胎齢によっては生涯にわたり体内にウイルスを保持し排出し続ける持続感染牛（PI牛）となる。

- ・粘膜病発症牛：血液を含む下痢、鼻・口腔粘膜のび爛・潰瘍、高致死率

\*牛の年齢、感染様式によって臨床症状は大きく異なる

## 3 牛RSウイルス病

### 主な症状

発熱、鼻汁、咳、気管支炎（重症例では肺炎・死亡）

\*年齢、品種に関係なく発生。寒冷期に多発傾向

## 4 牛パラインフルエンザ3型（PI3）

### 主な症状

咳、喘鳴などの呼吸器症状

\*輸送熱の原因、大規模では被害甚大

## 5 牛アデノウイルス病7型（AD7）

### 主な症状

発熱、咳、鼻汁などの呼吸器症状、下痢

\*季節に関係なく発生。輸送後に好発。子牛での多発性関節炎、虚弱子牛症候群の原因

## 6 ヒストフィルス・ソムニ感染症（ヘモフィルス・ソムナス）

### 主な症状

肺炎、関節炎、脳脊髄炎など

\*ふらつき、旋回運動、痙攣を起こし急性では1日以内に死亡。

導入後1～2ヵ月の子牛に多発傾向

## ○牛呼吸器病混合ワクチン

- ・母牛への注射 \*母牛を免疫し、初乳からの移行抗体により子牛の呼吸器病を予防

\*母牛にBVDウイルスを含むワクチンを接種する場合は、必ず、BVDウイルスが不活化されたワクチンを用いること



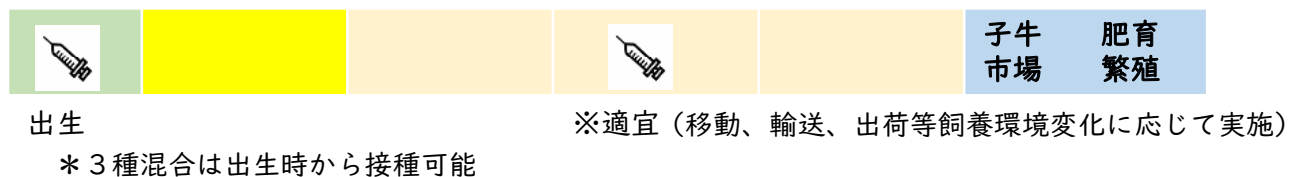
- ・子牛への注射



- ・子牛への鼻腔内接種（2種混合）

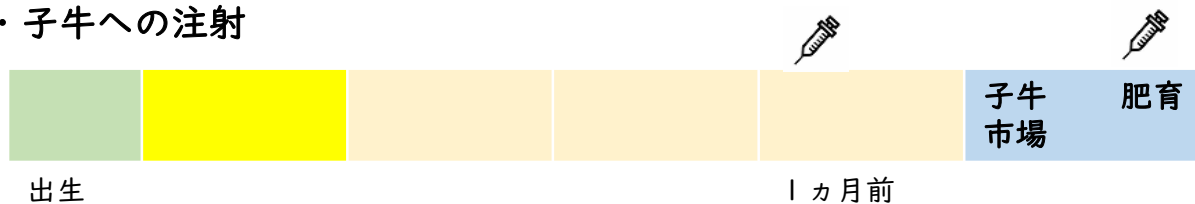


- ・子牛への鼻腔内接種（3種混合）



## ○ヒストフィルス・ソムニ感染症ワクチン

- ・子牛への注射



# アルボウイルスによる熱性疾患

## 1 イバラキ病（届出伝染病）

### 主な症状

発熱、目の充血、流涙、泡沫性流涎、嚥下障害、飲水逆流

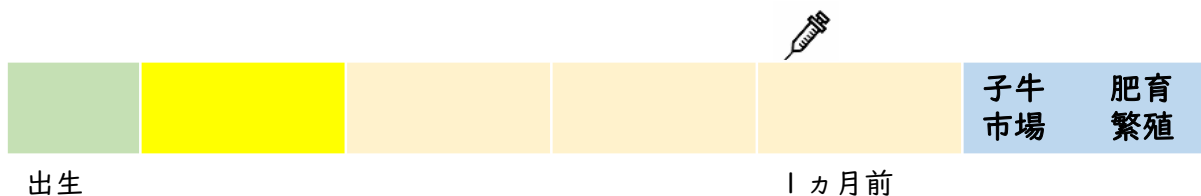
\*ヌカカ、蚊が媒介するため、流行に季節性あり（夏～秋）

## ○イバラキ病ワクチン

### ・子牛への注射

\*8月～12月に県内の子牛市場（黒毛和種）に出荷する子牛に接種

ただし、県外の子牛市場に出荷する場合は当該市場の規程に従って接種すること



## 牛の下痢症

### 1 牛ロタウイルス病

#### 主な症状

発熱、水様性下痢、食欲不振、下痢が長引くと脱水症状を起こし衰弱

### 2 牛コロナウイルス病

#### 主な症状

子牛：発熱、元気消失、灰白色の下痢

成牛：褐色の水様性下痢、ときに血液を混じる、泌乳牛では乳量低下

### 3 牛大腸菌症




大腸菌のうち、特定の病原因子を有する菌により哺乳牛の下痢症や新生子牛の敗血症を起こす。

#### 主な症状

酸臭のある灰白色～黄色水様下痢、時にペースト状の下痢や粘血便、脱水により虚脱状態となり死亡することもある。敗血症の場合、症状なく急性経過での死亡が多くみられる。

## ○牛下痢症混合ワクチン

- ・母牛への注射 \*母牛を免疫し、その初乳からの移行抗体により子牛の下痢を予防

初年度		 1ヵ月間隔で2回接種 			
		1回目		2回目	分娩予定日
		1.5ヵ月前		0.5ヵ月前	
次年度以降			1回接種 		
					分娩予定日
				0.5ヵ月前	

## ワクチンの使用にあたって

- ・ワクチンは衛生的に飼育管理されている健康牛に正しく使用しなければ、十分な効果を期待することはできません。
- ・そのためには飼養衛生管理基準を遵守し、衛生的な飼育管理に努めてください。
- ・また、かかりつけの獣医師に相談し、自分の農場の疾病発生状況等に合ったワクチンの利用と適正使用に努めましょう。

## 長崎県畜産協会が取り扱っている牛用ワクチン

- ・牛異常産4種混合ワクチン（不活化ワクチン）
- ・IBR5種混合ワクチン（生ワクチン）
- ・イバラキ病ワクチン（生ワクチン）

中央家畜保健衛生所	0957-25-1331	県南家畜保健衛生所	0957-68-1177
県北家畜保健衛生所	0956-48-3831	五島家畜保健衛生所	0959-72-3379
壱岐家畜保健衛生所	0920-45-3031	対馬家畜保健衛生所	0920-54-2179